

## 全国 20 か所の気象レーダーが全てドップラーレーダーになりました

気象庁では、平成 17 年度以降、全国 20 か所の気象レーダーを順次、ドップラーレーダーに更新してきました。

今年度、残る 3 か所、長野、静岡、名瀬の気象レーダーのドップラーレーダーへの更新を行いました。名瀬の気象レーダーがドップラーレーダーとして 3 月 14 日に運用を開始したことにより、全国 20 か所の気象レーダーがすべてドップラーレーダーとなりました。

これにより、大雨や突風発生の監視・予測精度の向上が図られます。

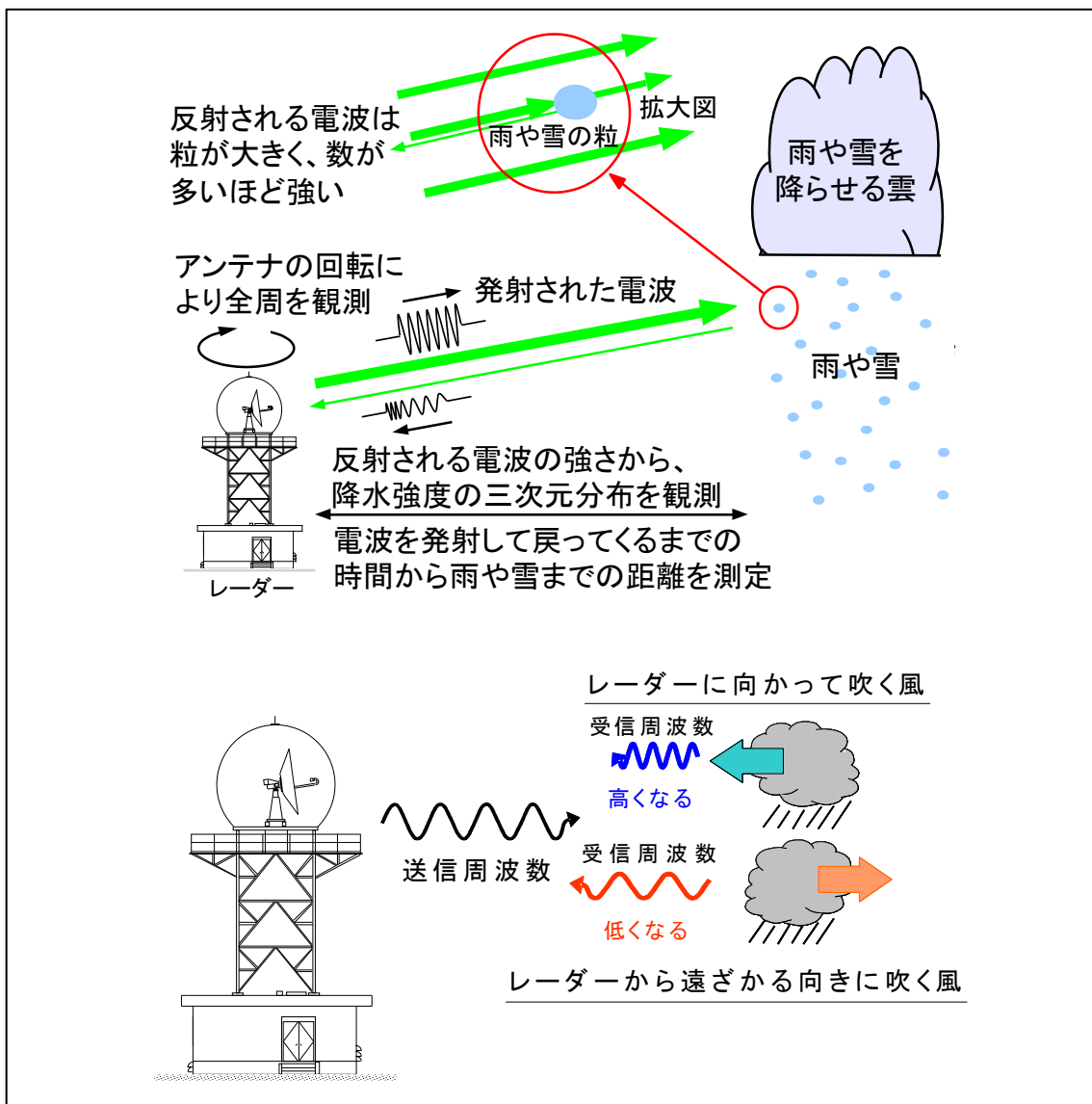
(参考) ドップラーレーダーとは、通常のレーダーが観測する降水の分布と強さに加え、電波のドップラー効果を利用して風で流される雨粒や雪の動きを観測することのできるレーダーです。

(本件問い合わせ先：観測課 内線 4 1 3 2)

気象ドップラーレーダーについて

気象ドップラーレーダーは、降水の位置や強さの他に、雨粒や雪の移動を電波のドップラー効果を用いて測定できます。

発達した積乱雲の中に直径数キロメートルから十数キロメートルの渦（メソサイクロン）が存在するときは竜巻をもたらす場合が多いことが分かっており、気象ドップラーレーダーによりこのメソサイクロンを検出することで竜巻などの突風現象の予測に役立てています。



気象ドップラーレーダーによる観測の概念図

雨や雪などの降水粒子は小さく、気流等に流されて移動しています。ドップラー効果によってレーダー電波の反射波の周波数が変化することを利用して、この降水粒子の動きを捉え、積乱雲等の構造を調べることができます。

## レーダー観測所の外観

(括弧内の日付はドップラーレーダーに更新して運用を開始した日)



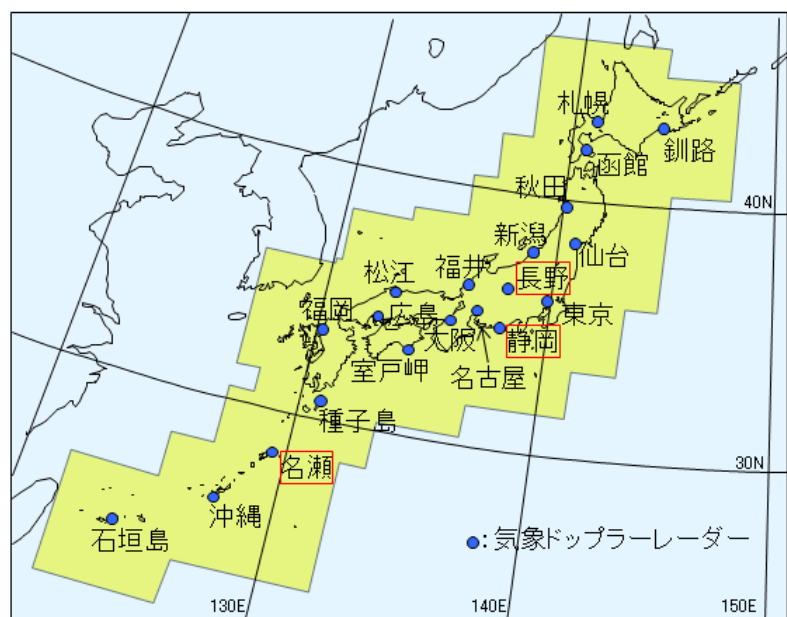
長野レーダー  
(11月15日～)



静岡レーダー  
(12月20日～)



名瀬レーダー  
(3月14日～)



気象庁のレーダー配置図 (赤枠: 今年度更新)